

## 令和5年度 第2回 島田市認知症対策検討委員会

開催日時 令和6年3月11日（月）19:00～20:10

開催場所 島田市役所 大会議室西（3階） ハイブリッド型

出席者 【委員】

島田市医師会	田口 博之（会長）
島田市医師会	小埜 聡司（副会長）
榛原医師会	高木 勇人
島田市薬剤師会	清水 雅之
榛原薬剤師会	進士 寿子
地域包括支援センター（第一）	守谷 理恵
地域包括支援センター（第二）	大石 鑑子
地域包括支援センター（六合）	鈴木 三奈
地域包括支援センター（初倉）	鈴木 桂子
地域包括支援センター（金谷）	杉山 葉子
地域包括支援センター（川根）	鉄 慶晃
グループホーム（ひぎり）	小山 正晃
デイサービス（デイ御飯屋）	杉本 雄
ケアマネージャー（ケアマネットしまだ）	松本 りか
認知症家族の集い（会員）	鈴木 陽子
認知症家族の集い（会員）	戸田 奈津子
島田市民生委員児童委員協議会	渡辺 誠

【事務局】

包括ケア推進課長	大久保 勉
地域支援係長	米澤 美晴
保健師	齋藤 夢歩

### 1 開会

### 2 包括ケア推進課長あいさつ

皆様、こんばんは。包括ケア推進課長の久保と申します。よろしくお願いたします。

本日はお忙しい中、令和5年度 第2回認知症対策検討委員会にご出席いただき、ありがとうございます。また日頃は、島田市の介護保険事業をはじめとする高齢者福祉施策にご理解ご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。今年度、第1回目の検討委員会では、認知症にやさしいまちづくりをテーマに様々な立場から活発な意見交換をしていただきました。具体的には、まだまだ地域には認知症への間違った知識や偏見があることや相談場所の周知が不足していること。また地域のつながりがご本人やご家族の支えとなった事例をご意見いただき、地域のつ

ながりの重要性を改めて共有できたかと思えます。その後も現場でご活躍される皆様だからこそその気づきや課題をご意見いただきました。

今回の検討会では、それらの第1回でいただきました地域の課題に対して、それぞれの立場から取り組まれたことの共有と、今後必要とされる具体的な取り組みについて意見交換をいただきます。

本日もそれぞれのお立場から活発な議論をお願い申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(事務局) 続きまして、委員の変更がありましたので、ご紹介させていただきます。

委員の任期につきましては、「島田市認知症対策検討委員会要綱 第4条第1項」の規定により2年となっており、皆様におかれましては、令和5年度、令和6年度の任期をお願いしているところです。

令和5年10月1日付けの、人事異動に伴い、遠藤 久哉(えんどう ひさや)様から、「鈴木 三奈(すずき みな)様」へと、交代となりました。委嘱状はお席に置かせていただいております。よろしくお願いいたします。

### 3 会長あいさつ

皆様こんばんは。本日はお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。活発なご意見をどうかよろしくお願いいたします。

### 4 報告・検討事項

(1) 島田市の認知症施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

(事務局) 島田市では、資料1ページ目下に記載されている内容を今年度実施した。今年度は新たに「認知症に関する映画の上映会」を実施し、計40名の方にご参加いただいた。「認知症について理解が深まった」「映画を見なかった人にも話したい」などの感想や次回開催を望むお声を多くいただいた。

続いて、今年度認知症サポーターステップアップ研修を実施。こちらは市内の認知症サポーターを対象にチームオレンジへの参加活動促進を目的とした。計29名の方にご参加いただき、そのうち数名の方が市内のチームオレンジの参加に繋がった。

今年度認知症カフェが新たに2か所立ち上がったため報告する。1か所目が初倉地区の「つながる広場くらら」。こちらは初倉地域総合センターくららで月に1回実施してくださっている。

2か所目が金谷地区の「ひなたぼっこカフェ」。こちらはかなうえるにて月1回実施してくださっている。

認知症カフェはどなたでもご参加が可能なもの。専門職が常駐していることから相談もできる。HPに市内の認知症カフェについての情報があるので、ぜひ市内でご興味がある方にご紹介いただきたい。

次に、事前質問票の中で3点ご質問いただいたので、そちらに回答していく。

一つ目の質問として、「徘徊高齢者等事前登録事業について、令和5年12月末時点で登録者が44名となっているが、今まで登録されている方が行方不明になり発見、保護に

つながったケースはあるか。またその時には、どのような流れで発見、保護につながったのかという内容のご質問をいただいた。こちら、過去にあったケースとしては介護保険事業所から市に、高齢者が行方不明になったとの話があり、当該高齢者が登録事業を利用していることが確認できた。そこで警察と各地域包括支援センターに現在行方不明であることと登録番号を伝え、搜索の結果、発見・保護につながったケースがある。登録情報については市・地域包括支援センター・警察が把握しているため、一番最初に高齢者が行方不明になっていることを把握したところがほかの二つに連絡を取る体制になっている。

二つ目の質問として、「認知症初期集中支援事業の内容について知りたい」とご質問いただいた。

認知症初期集中支援事業とは、複数の専門職がチームとなって、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価を行う。そのうえで、家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う事業。認知症初期集中支援チームの「初期」とは、2つの意味が含まれ、一つが、疾患の初期段階の支援という意味。二つ目が、かかわりの初期の支援という意味が含まれる。また初期集中支援チームの「集中」とは、訪問による支援を概ね6か月という期間で集中的に行い、医療・介護サービス等に引き継いでいくこと。市内では各地域包括支援センターに業務を委託しており、6つのチームを組んでいただいている。

三つ目のご質問として通いの場、社会参加の推進についてご質問いただいた。「しまトレが市内に広がってきたが、団体の中には参加者が減少し中には活動の維持が難しくなり、休止している団体もある。また、居場所についても参加者、スタッフの高齢化による人数の減少がある。65歳以上が高齢者だが、若い世代からの介護予防、認知症予防の知識が大切だと思う。これらの課題について、島田市としては今後、どのように検討、対応していくのか 考えを聞きたい。」とご質問をいただいた。

こちらについては、包括ケア推進課 地域支援係長の米澤から回答させていただく。

社会的フレイル予防の部分に関与する部分だと思う。平成27年度から島田市では総合事業を開始し、国の示す多様なサービスの充実を図るため、住民主体の通いの場として、しまトレや居場所の立ち上げや維持の支援を行ってきた。

しまトレで言えば、立ち上げ時には環境整備の補助事業、立ち上げ後1.2.3か月、半年、一年、毎年と市職員や地域包括支援センター職員が出向いて体力測定などを実施し、モチベーションの維持、認知症などの心身の状態変化のある参加者の早期発見、支援へのつなぎなどを行っているところ。27年からの経過の中で、しまトレ立ち上げ当初70歳代だった参加者たちが80歳代となり、心身の状態の変化等から、参加者が減少している団体があることも聞き、把握しているところ。今後ますます高齢化や地域のつながりの希薄化、一人一人の生活が多様化するなかでは、サービスがさらに多様化したもの、そして支える側、支えられる側年齢を問わないようなものが必要になってくると思う。

介護予防や認知症予防の若い世代からの理解とかかわりが今後ますます必要になると考える幼保、学校等の教育関係や若い世代のいる民間企業などとのコラボなども今後ますます必要だと考える。委員会の中でも、良いアイデアがあれば教えていただきたい。また今後は今まで行ってきた事業の評価を深め、地域医療介護等あらゆる担い手が不足し

ていく中での、多様なサービスのありようなどを検討していきたいと考える。事務局からの資料1についての報告・説明は以上となります。

(2) 地域包括支援センターの認知症施策に関する取組・・・・・・・・・・資料2  
各包括から説明

(委員) 様々な世代の認知症サポーターを養成することを目的に、認知症サポーター養成講座の開催を第一地区社協、放課後児童クラブ(小学生)を対象に計5回実施した。またチームオレンジしまいちの連絡会を今までは包括支援センターの職員と介護事業所の職員が主だったが、今年度はステップアップ研修を受講した一般市民の方も連絡会に参加し、いろいろな意見が出ている。来年度にその意見をつないでいきたい。

他機関と協働したオレンジカフェの開催という形で3月27日に伊太地区でおしゃべり会を居場所という形で立ち上げを企画している。その中で認知症に対する相談や誰でも参加できる地域とのつながりを大切にできる場という形で今後も月1回の頻度で開催していきたい。

(委員) チームオレンジきずなの活動の実施を見直していく予定。年2回キャラバンメイトの連絡会を開催した。6月に顔合わせと現状報告をした。10月にチームオレンジきずなの皆さんに認知症サポーター養成講座の協力をいただいた。きずなが周知されてきて、認知症サポーター養成講座も小学生を対象と一緒に劇をやったいただき、協力を得られるようになってきた。来年度も声をかけてほしいとお声をいただいたため、活動の場が広がってきたように思う。

認知症を正しく理解してもらうために、教育関係や企業、福祉事業所に働きかけて認知症サポーター養成講座の案内を配布した。今年度、4回認知症サポーター養成講座を実施する予定だったが、学校や民生委員を対象に実施をできた。ただ、ずっと課題であった若い世代を対象にすることが出来ず、来年度も積極的に外に出て企業や若い世代の方たちに声をかけていきたい。

(委員) 認知症サポーター養成講座を小中学校と企業を対象に実施予定だったが、小学校は学校の都合で実施できなかった。中学校と断酒会に実施した。断酒会のメンバーに認知症の方がおり、開催後にその人に対して、どのように接したら良いのかがわかるようになった、自分自身の振り返りができたと好評だった。チームオレンジ連絡会を予定していたが、職員の移動等の関係で、今年度の実施ができなかった。来年度実施していく。認知症カフェの開催に関して東町のものを毎月実施。グループホームで実施しているが、グループホームからの参加者とそれ以外の参加者で大体20名ほど毎月参加者がいる状況。実施継続していく。また、地域の声からなかなか東町まで行く手段が無く、参加が叶わないとの声が上がっているため、来年度は移動式の単発開催のカフェを予定している。

薬局と連携し相談窓口の設置をした。11月2月にまちなか保健室をウエルシアで実施。元気な人でちょっと相談したいという人と出会えるきっかけとなった。今後も継続していきたい。グループホームとの定期的な運営推進会議を実施。施設の声を開

ける機会となっている。

(委員) 幅広い世代の方へ、認知症サポーター養成講座を初倉小・初倉南小・初倉中学校に開催している。初倉地区は地域住民の活動が活発であるため、ふれあいや居場所、健康クラブの方を対象に認知症サポーター養成講座を今後も実施していきたい。また、チームオレンジ連絡会を年6回実施。その方々が主になって、今年度認知症カフェが立ち上がった。カフェの手伝いをチームオレンジメンバーが手伝ってくれている。また、認知症サポーター養成講座も協力いただいている。

今後は、初倉くらので行っている認知症カフェが子ども食堂と一緒にしている部分があるため、もう少し認知症について周知徹底して子ども食堂の親世代にチラシ等を配布していきたい。また特養と協力して認知症カフェを4月頃に立ち上がる予定。地域住民と一緒に立ち上げていきたい。今週末は、まちなか保健室を南原という地区で地域住民が主体となって相談ブースを作っていく予定。

(委員) 若い世代を始め様々な世代に認知症の基礎知識と理解を深め、地域で見守り体制を作るために認知症サポーター養成講座を民生委員、金谷小学校の4年生、金谷中学校を対象に実施している。金谷地区にはキャラバンメイトが6-7人集まったチームちゃつきりという団体があり、その連絡会を実施。金谷地区には認知症カフェが無かったが、アンケート実施により、認知症カフェが欲しいと住民の意見があったことをふまえ、ひなたぼっこカフェという認知症カフェを12-2月に毎月1回実施してきた。またキャラバンメイトやチームちゃつきりの活動の場として、地域の居場所に出向いて認知症予防についてのレクリエーションを実施してもらった。

認知症の人も自分の役割を見つけ、活躍できる場を作る取り組みをしたいと考え、ひなたぼっこカフェで花壇づくりを実施。今後も工夫しながら活動の場を広げていきたい。

(委員) 様々な世代に認知症に対する正しい知識と理解を広げていくため、川根小学校・中学校に認知症サポーター養成講座を実施してきた。今年度は、川根小学校にはカリキュラムの都合上行えていないが、川根中学校環境福祉委員を対象に認知症サポーター養成講座を実施。認知症予防講座を各地域のしまトレや居場所の団体を対象に実施。キャラバンメイト・チームオレンジとの連定例会を実施。チームオレンジの方々が居場所の運営スタッフも担っている。居場所支援の訪問時に都度利用者や地域の様子の確認を行っている。訪問時に限らず、心配事や地域の相談をいただき、対応するケースもある。

認知症カフェは家山の駅前で月1回実施。地域包括支援センター職員も参加。また認知症予防教室もそちらで実施している。運営推進会議も12回適宜参加している。

また、新規の認知症カフェの立ち上げを予定している。認知症サポーターの方と協働して山関園製茶さんの元で認知症カフェの立ち上げをするべく、小地域ケア会議を実施。山関園製茶さんから快く承諾いただいた。今後、山関園の繁忙期を除いて月1回程度実施していきたい。詳細の打ち合わせと周知方法を検討中。

## 5 意見交換

(会長) 資料3の表面の記載内容は、8月に実施した第1回認知症対策検討委員会の話し合いで出た4つの課題。今回はこの①から④の課題に対して、【資料3】裏面の内容で意見交換を行う。まず①から④の課題に対して「取り組んだこと・取り組む中で気づいたこと」について意見交換をいただきたい。

(委員) 第二包括では、相談事は民生委員から情報提供されることが多い。民生委員は地域のことを一番よく知っていると思う。民生委員との連携を大事にしていきたいと思い、取り組んでいった。以前は相談を受けても、そのあとの状況の説明ができていなかった。民生委員からも後のことがわからないから、自分たちも見守りを今後どうして良いかわからないという意見をいただいた。そこで必ず対応した内容に関しては返答をするような形にし、信頼関係を築くことを心がけるようにした。

(委員) グループホームの方で委員会に参加をした。市内に14か所グループホームがあり、2か月に1回連絡会を実施している。グループホームの中では、認知症カフェや地域支援の取組など地域とのつながりを積極的に取り組んでいる施設もある。一方、なかなか活動に繋がっていない施設も半数以上ある現状。今後も定期的な連絡体制に努めながら、他施設を参考に、金谷地区でも実施していけたらと思う。

(委員) 訪問も多くさせていただいている関係で、対利用者やご家族に対して、悩みを聞きながら支援方法や必要に応じて受診も進めながら、その人が長く自宅で過ごせるように活動をしている。

(委員) 金谷の民生委員を行っている。まずはこの委員会自体が、私が参加させてもらうようになってから、委員会があることを知った。地区の会長として、このような委員会があり、活動が活発にされていることを定例会で都度話をしていきたい。市の見守り活動の基準が70歳以上の独居の人と75歳以上の夫婦世帯を対象に高齢者見守り台帳に則って見守りを行っている。金谷地区は27名の民生委員が活動している。内容として、金谷地域包括支援センターからチラシが来て、チラシに記載がある健康情報や特殊詐欺の注意事項を踏まえながら、見守り先の人と話をする。会話の中で地域包括支援センターにつなげたほうが良いと感じる方を本人が納得した場合に地域包括支援センターにつなげている。4年間の民生委員活動で14人の方を地域包括支援センターにつなげ、そのうち2人が認知症の方。家族から相談があつて地域包括支援センターにつなげた。もう一人は市の基準でない世帯を訪問していたところ、その中の家族から相談の連絡が後日あつた。介護福祉に繋がった。

(副会長) 地域の取組・つながりに関して言うと外来で認知症の患者さんを診る中で焼津市

立総合病院や医療連携を取っている。先ほど話にあった、初期集中支援について、かなり件数が少ない状況にあるが、県内の他市町どこも件数が少ない状況。これに関して何かシステムの使い勝手があるのか、件数が少ない原因が何かあると思う。当市だけが少ないわけではない。

(委員) 島田薬剤師会薬局としては、これまでも薬剤師の在宅訪問を行うとともに、認知症の方が在宅のニーズが高いという部分で、チラシや在宅訪問可能薬局のリストを地図にまとめて提出予定。また、島田総合医療センターと入退院時の共同事業として、かかりつけ薬剤師を持っていただくとともに、入院時に患者の持参薬を薬局で整理し、入院時に持って行っていただくという活動を実施している。緑や薬局では認知症カフェを実施している。高齢者がメインであったが、認知症の理解の普及啓発のために、若年層の参加も必要と考え、市とコラボしeゲーム(太鼓の達人)体験会を実施。当日は地域の子供は参加しなかったが、自身の子供が参加し、認知症の人や地域の高齢者と一緒にゲームを行った。とても好印象で、薬局に来る高齢者以外の方もeゲーム体験会に興味を持っていただくため、今後そういったものを認知症と絡めて、幅広い世代の方が参加できるような取り組みができればよいと思う。

(会長) ありがとうございます。これまでの発言としては、多職種・医療間・包括と民生委員・薬局と病院などと連携を行っている。本人への直接ケアを行ってくださっている。大事なこととして、ここではご発言いただかなかった方も含め、皆さんそれぞれのお立場からできることを検討し、行動に移してくださっていると思う。そして、それぞれの取組が認知症にやさしいまちづくりに貢献されていると思う。今後も活動をぜひ継続していただきたい。

続いて2つ目の意見交換に移る。次に「今後どのような仕組み・体制・取組があるか」と良いか」につきまして、皆さんのご意見をいただきたい。

(委員) 若い世代の人にどのようにして周知するかが課題になると思う。実際に認知症の人と生活していても、家族の方がどの程度認知症について理解しているかがわからない。認知症の人との接し方が大事になってくると思う。認知症について学ぶ場が必要。地域包括支援センターの方が企業などで認知症サポーター養成講座を行ってくださるところが良いと思う。認知症の方が気軽に相談できる人や場を作ることが必要。薬局でも認知症の方の個人的な相談が多い、家族以外にも誰でも相談できる環境づくりをやっていただくとありがたい。

(委員) 免許更新の機会に認知症かもしれないと本人・家族が気づくということがよくあると思う。そこで教習所職員を対象に、認知症サポーター養成講座が実施できると良いと思う。また、現在MCIの方をフォローする仕組みや体制が無く、若い世代に認知症に対する理解を深める活動を行っていきたいと考える。企業にも認知症サポーター養成講座を勧めていけたら良いと思う。

認知症推進員の中で、藤枝市で行っている「認知症にやさしいお店・事業所」があ

ることが話題になった。そのような取り組みを島田市でも出来たらよいと思う。

(委員) 認知症にやさしいまちづくりということで、認知症の人に何かしてあげるのではなく、認知症の方が住みやすくするためにどのようにしていけばよいか考えていきたい。若い世代への周知や認知症に対する理解を広めていく必要がある。皆さんが街に住んでいく中で店舗や金融機関など高齢者が生活していくなかで、関わりのある機関への働きかけが不足していると思う。見守りネットワークなどに協賛はしてくれているが、まだ認知症への理解が進んでいないと感じる。そのような面も対応していけたら良いと思う。

(委員) 11月に島田市での産業まつりを見に行った時に、手話の会の人たちが簡単な手話を教えてくれて、覚えたことを参加してくれた人と一緒にやるとクッキーがもらえるというようなブースがあった。興味がある人はスツとそのブースに入っていく場面を見て、とても良いと思った。これを認知症を知ってもらうブースもあっていいんじゃないかと思った。今学校や企業などでも普及啓発をしていると思うが、市内のイベントなどでも普及活動が活発にできると良いかと思う。あとはVR体験なども活発にできると良いと思う。

(委員) 多いと感じるところは、私たちから見れば認知症だと感じる面がご家族は全然気づいていないケースが多い。こちらも直接認知症とは伝えづらく、認知症であると理解するまでに時間がかかる。認知症というものを知っていても、自分の家族がなるとは認めたくない人が多いのではないかと感じる。また認知症が進んでいく過程を見ていくと、家族が全く怒らない人の周辺症状と怒られてばかりの人の周辺症状が明らかに違う。怒らない家族のもとで生活をしている人は穏やかに過ごしている。そのような部分の理解を皆さんの取組の中で対応の仕方について支援をしていけたらいいのかと思う。

(委員) 川根包括の中でも認知症というものを家族や地域の人が正しく理解できていないという部分が相談の中でもある。独居の本人のところに他市町の家族が見に来た際に、川根包括に相談があった。短期記憶障害があったが、家族は認知症とは思わなかった様子。もっと認知症とはどんなものか知ってもらいたいと思う。知ってもらうためにも、地域包括支援センターの方での啓発が大事だと思う。

川根地域包括支援センターでも介護予防普及啓発や認知症サポーター養成講座を実施して、地域住民への周知を行っているが、地域全体が認知症にやさしいまちになっていくという面では、薬局さんや民生委員さんなど各地で活動をしてくださっている現状を知り、個々での様々な活動だけでなく、それぞれのサポートする側のつながりも強固にしていくことが必要になると思う。

(会長) いただきました意見の中で、これまで行ってきた取組を継続していくことで、やさしいまちづくりに繋がっている一方、現在の取組の中では取りこぼしてしまってい

る対象もいるため、それらの対象に向けたアプローチが必要であるとわかった。また、お互いの連携をより強固にすることで、多くの対象にアプローチすることができるなどの意見をいただいた。その中で鉄委員から連携についてのご発言があった。ここで3つ目の意見交換の「どんな立場の人がどのようにして連携をとれると良いか」について、皆さんのご意見を伺いたい。

(委員) 民生委員をはじめ、地域団体地域住民が高齢者の異変に気付いて関係機関に相談つなげること、そしてさりげない見守り体制を作っていくことが大切だと感じる。また、各関係機関が偏見を持たずに顔の見える関係を作っていくことが必要だと感じる。

金谷地区は、居場所をはじめ地域団体がたくさんある。民生委員もとても熱心に見守り訪問活動を行ってくれている。その中でも今までとは違った身体面や認知面の異変を感じ、地域包括支援センターに相談をいつもくれる。その相談の中から、民生委員と一緒に同行訪問したり、地域団体の代表者と一緒に訪問し、本人の意向を確認しながら、家族にもつなげて受診・介護申請につなげている。高齢者の中でも認知症の進みを自覚されている方と全く自覚していない方と様々。共通していることは誰もが、この家がいいと話す。お金があれば施設に入ることは簡単だが、私たちができることは、できる限り本人に寄り添い、住み慣れた地域で過ごせるように寄り添うことが大事。地域に出た時も、困っている人に手を貸したり、その人に寄り添ったり、自分ができる範囲でサポートしてあげることがさりげない見守りだと思うし、それができればよいと考える。

(会長) 大事なキーワードが出たかと思う。「さりげない見守り体制」と「顔の見える関係性」という部分が特に大事かと考える。そのような見守り体制・顔の見える関係性の面で今現在でのできていると感じる面とできていないと感じる面両方をお聞きしたい。

(委員) 顔の見える関係でいうと、へき地ということもあって、近所の方も話をして、地域住民が病院に連れてきてくれることもあり、地域柄良いと感じている。ただ高齢者独居生活の方が多い地域で、家族が県外などの遠方に居る人も多い。そのような方々とのようにして連携をとっていかということが課題になってくる。ZOOM などを利用すれば、お互いに顔を見ながら話ができるかもしれないが、なかなか来院いただくことも大変なので、そのような方々といかにやり取りをできるかが今後大切になってくると考える。

(委員) 母をグループホームに預けている。預け当初は話もたくさんできたが何年か経つと、認知症が進んでしまい、辛いと感じることもある。また、しまトレのスタッフも行っている。しまトレの会合で、eスポーツの話が出た。市で領収書があれば機材の設置に補助が出ると教えてもらった。それを地区の方で話をしていこうと思う。夏休みになり、子供と一緒にできたら、認知症予防にもつながると考えている。

(委員) 初倉地区は地域差があると感じる。地区の活動が活発だが、認知症の理解が専門職と地域住民で理解度に差があるように感じる。NYK（認知症を予防する会）という地区活動があるが、その団体に対しても認知症サポーター養成講座はまだ実施していない。もう少し認知症について理解を発信していかなければいけないし、一般住民の参加者が多いチームオレンジの方との温度差も埋めていかないといけないと思う。認知症を理解するために地区ごとでチラシを配布したりし、MCI についてなども住民に知っていただく活動が必要だと考える。

(委員) 認知症の理解や MCI の周知をしていくため、高齢者の団体はもちろん、若い介護をしている世代や子育て世代にも講座等を実施していければと考える。

(委員) 認知症の方の周知・サポーター養成講座はすごく良いと思う。同時にサポーター養成講座を受講した方々がいかに活躍できるかが重要だと考える。薬局に来てくれた小学生が学童で認知症サポーター養成講座を受講したようで、認知症のことを教えてくれた。小学生が教えてくれると、待合室で待っている人も耳を傾けてくれる状況があった。せっかく養成講座を受講してくれた小・中学生の方々が地域で活動できる機会を作っていくことで、さらに若年層の広がるとともに、今まで伝わっていなかった層に啓発ができると思う。私たちが啓発するといつも同じ人が対象になってしまう。今後啓発を広めるためには、これまで行ってなかったところでやっていなかった人たちに声をかけるという仕組みと連携ができると良いと思う。

(副会長) 湖西市の方では、認知症サポーター養成講座を実施している学校に地域格差がある状態であった。湖西市ではないが、行政が校長会で中学校 2 年生に認知症サポーター養成講座、中学校 3 年生を対象にステップアップ講座を受講いただくように決定した市があったとのこと。それにより地域格差が無くなっていくと考える。そこで島田市でもそのようなことを決めても良いと思う。トップダウンで市に動いていただくと助かる。

(会長) 本日の委員会が出た意見の中でできそうな部分を積極的にコラボ・連携していただき、顔の見える関係をますます構築していきたいと思います。これまで行ってきた事業の継続・充実をますます図っていききたい。それでは、皆様貴重なご意見をありがとうございました。今回の意見・検討事項をそれぞれの団体に持ち帰っていただき、今後の活動に生かしていければと思う。今後も認知症にやさしいまちづくりを推進するためにご活躍されることを期待する。

## 6. 閉会

(事務局) 会長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましてもそれぞれのお立場から活発なご意見をいただき、ありがとうございます。

校長会には毎年包括ケア推進課で出向き、依頼をさせていただいている。ただ教

育委員会の壁もあると感じている。その壁を乗り越えていくためにも検討をしていく必要があると感じた。お話しいただいた、さりげない見守り、MCI 等を早期発見し、つながり周知していくためにも、島田市としても意識して取り組んでいきたいと思う。またご相談させていただきたい。本日はありがとうございました。

委員の皆様には令和6年度も任期2年目となるため、引き続きよろしくお願いたします。令和5年度第2回島田市認知症対策検討委員会を終了いたします。委員の皆様長時間にわたりありがとうございました。